

トンネル切羽作業エリアへの立入禁止表示の見える化

トンネル工事では狭い坑内で何種かの大型重機が稼働することになることから、重機と人との接触事故が発生する恐れが大きい。

このため、歩行者立入禁止となるトンネル切羽付近の重機作業エリアと、人が立ち入っても良い後方エリアの区分を明示して見える化することで、歩行者の切羽への進入を防止し、人と重機車両との接触事故の防止を目指す。

万一、切羽付近の重機作業エリアに人が立ち入る必要が生じた場合には、切羽監視員にその旨を伝え、無線等により切羽監視員から重機オペに機械の稼働停止を指示してもらう。機械の停止を確認した後に、切羽監視員の誘導指示に従って切羽エリアに立ち入る。



切羽作業エリアへの立入禁止措置

- ・ ネットを使用した立入禁止柵の設置
- ・ ネットを外した場合でもLED照射により範囲を明示
- ・ 切羽監視員による立入禁止の監視

※左写真は、エリア手前での切羽作業確認状況